

# おめでとう クリスマス

2012



vol.119

12

## はいっポーズ!

《釧路地区・勝山》

松崎久美さんと憂<sup>う</sup>依<sup>い</sup>ちゃん

(紹介は2ページです)

特集

- 第27回JA北海道大会
- 平成24年産  
農畜産物を振り返って



## ミントイルミネーション

## 季節の薫り



今年の冬至は、12月21日。月日の経過とともに日が沈んでいく時間の早さを感じるこの季節。北見駅周辺では、クリスマスムードを飾る色鮮やかな電球が輝きを放ち、道行く人たちの視線を釘づけにする。

前のめりなTPP交渉参加姿勢など、なかなか明るい兆しが見えず、予断を許さない農業情勢。

衆議院選挙を目前に控え、国民の食を生産することに誇りを持って頑張っている生産者。

その揺らぐことのない信念が、決して消えることのない明るい灯を照らす。

是非とも来年は、イルミネーションのように安堵感を与えてくれる農政が築かれ、生産者に輝かしい光が差し込んで欲しいと願う。



【写真は11月30日に、北見駅前広場に飾られているミントイルミネーションを撮影。ハート型のオブジェの前では、記念撮影するカップルの姿が見られました。今年は節電を考慮し、約64,000個のLED電球が昨冬より2時間短縮した午後3時30分～9時まで点灯。期間は来年2月28日までです。】

## もくじ CONTENTS

○ JAきたみらい ホットライン東西南北	12	特集① 第27回JA北海道大会	4
○ ほのぼの広場	16	特集② 平成24年産 農畜産物を振り返って	6
・ きたみらいのホームページ		○ 季節の薫り	2
・ 思い出の写真		○ 表紙紹介	2
・ マイティスト		「思いやりのある子に」	
・ 「天体観測」			
・ 私のパートナー			
・ わが家のアイドル			
・ 大きくなったら			
・ おらがまちのおしどり夫婦			
・ まちがいがし			
・ 読者の声			
○ 青年女性ネットワーク	20		
○ JAからのお知らせ	22		
○ おひさまサラダクッキング	28		
「ゴボウと牛肉のおこわ」			
「変わりおでん」			

## 表紙紹介

### 思いやりのある子に

畑にうっすらと雪がかかる11月26日、松崎さん宅に着くと憂依ちゃんとお母さんが玄関まで迎えてくれました。

最初は「だれかなあ？」と不思議そうな顔をしていた憂依ちゃんですが、お土産に持っていったお菓子里に興味津々、次第に馴染んでくれました。2才6ヶ月になり、来年には保育園に通います。

卵を割るのが好きで、お手伝いもします。最近はお母さんの味を覚え、ご飯の支度中にバターの香りが漂うと、探して食べようとします。

「好きなテレビは？」と聞いてみると「トムとジェリー」と答えてくれました。「おかあさんといっしょ」が始まると、テレビを見ながら元気にダンスを踊ります。

お風呂も好きで主にお父さんと一緒に入りますが、「憂依の気分次第ですね」と話すお父さん。

どんどん大きくなっていく憂依ちゃんを見て、お父さんとお母さんは「健康で思いやりのある子に育ってほしい」と話してくれました。



【ご家族紹介】  
前列左から～おばあちゃんのちどりさん(64)、憂依ちゃん(2才6ヶ月)、おじいちゃんの正好さん(61)  
後列左から～お母さんの久美さん(27)、お父さんの真也さん(28)。松崎さんは、甜菜、小麦、馬鈴薯、スイートコーンなど約25種を作物作付けしています。

# 第27回 J A 北海道大会 豊かな農業 豊かな地域社会を目指し

J Aグループ北海道は11月21日、札幌市で第27回 J A北海道大会を開催しました。大会は3年に1回開かれ、会場となった札幌コンベンションセンターには、全道の組合員や J A・連合会の役員など約2000人が参加し、 J Aきたみらいからも西川組合長を始め、30人の役員が出席しました。  
メインテーマを「協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会」と掲げた大会を紹介します。

## 2つの決議、特別決議と 大会宣言を承認

大会は開会宣言と男声合唱団「ホクレングリーンコール」の国家斉唱で幕を開けました。  
来賓として高橋はるみ知事、道経済連合会の近藤龍夫会長、道消費者協会の橋本智子会長などが出席。

大会長の J A道中央会・飛田稔章会長は「地域農業の構造変化に併せて農業政策も変化している。とりわけ T P P は例外なき関税撤廃を原則にしていることに加え、暮らしや地域社会に極めて大きな禍根を残す問

題。 J Aグループ北海道は、交渉参加断固阻止に向け、道民の皆さまに広く理解を求めるとともに、消費者、経済界など関係機関と連携して、 T P P 交渉参加阻止を実現するまで最大限の運動を展開する」と開会挨拶を述べました。



▲ J Aきたそらちの早崎組合長とともに議長を務めた当 J Aの西川組合長（右）

高橋知事は「農業農村を取り巻く環境が大きく変化するなかで、道農業の競争力と体質の強化は待ったなしであり、 J Aの果たす役割はますます大きくなっている。道としても J Aとの連携を一層深め、 T P P 交渉参加を迅速に判断しないよう国に働きかけを強めていきたい」と挨拶されました。

道経連の近藤会長は「道経済の発展は食産業の発展によるもの。またその基盤となる道農業の一層の強化が大事である。わが国が目指すのは、自国の食料は自国で賄う農業であり、若い人に魅力ある、農業であるべき。関税撤廃を前提とする T P P 参加は現状、容認出来ない」と述べ、道消費者協会の橋本会長も「北海道農業が衰退することは消費生活に大いに影響を及ぼす。この立場から T P P を含め、農業が立ち行く政策を求めて J Aと行動を共にしてきた。本大会のテーマである協同活動でつくる持続可能な農業と豊かな地域社会は、まさに消費者も求めるものだ。豊かな地域社会に向けて、共に考え、共に行動していきたい」と挨拶されました。  
本大会の議長は、 J Aきたそらちの早崎組合長と当 J Aの西川組合長が務めました。  
議事では「持続可能な北海道農業



▲約2000人が結集し、今後3年間の J Aが目指す方向性を決めた J A北海道大会。左の写真は、開会挨拶を述べる跳田会長



国内両面から資源の供給制約問題に直面しており、資源の安定供給、効率的利用、国内資源のフル活用を図ることが重要で

の実現」「次代を担う協同の実践」の2つの大会決議と「 T P P 交渉参加断固阻止に関する特別決議」の上程がなされ、大会宣言とともに満場の拍手で承認されました。  
また、 J A道女性協議会の岩永かずえ会長が、道民の信頼と期待にこたえるための「道民のみなさんへのメッセージ」を伝えました。  
大会の開会前には、(株)資源・食糧問題研究所代表の柴田明夫氏が「世界の食料需給の動向と北海道農業の課題について」と題して、記念講演を行いました。柴田氏は「海外では安い食料価格時代は既に終りを迎え、今まさに資源・食料価格の高止まりが続いており、農産物インフレ時代に突入した」と話し、さらに「日本



▲記念講演を他 J A役員とともに真剣な表情で聞く当 J Aの役員

ある。振興国を中心に世界人口は70億人を超えた。穀物需給のひっ迫している現状を踏まえ主産地である北海道の農業・食品産業が経済の牽引役としての役割を、如何に果たしていくのが課題である」と述べました。

# 特集

## 平成24年産 農畜産物を振り返って

平成24年も残すところ20日余り。今年は雪解けが遅く、植え付け時期や収穫時期の断続的な降雨により各作物の作業が進まず、いかに自然と闘う産業の「農業」とはいえ今年も天候に左右され、組合員の皆様は大変苦労の多い年であったことと思います。今月の特集で、24年産農畜産物を振り返ってみたいと思います。

### 水稲

#### 作況指数 114の豊作

移植時期は昨年並みの5月23日から低温下で始まり、概ね6月2日まで終了しました。

移植期間を通じ強風の日がなく、穏やかに推移したため、活着は昨年並みに進みました。6月上旬までは好天に恵まれ、初期生育は順調でしたが、中旬に強い低温を受け生育は一時的に止まり、移植の遅れた圃場で葉の退色や分けつが遅れが見られました。幼穂形成期は概ね高温多照で経過、分けつ茎が急速に生育し有効化する傾向にありました。特に7月19日から4日間は平均気温で13・8℃と強い低温となり生育は停滞、止葉期は昨年対比で4日遅れ、出穂揃いは3日遅れとなりました。開花期の8月1～8日の平均気温も17・1℃と低温で経過し、開花にばらつきが見られ、初期登熟も非常に緩慢で

### 冷害が豊作に変わった年



きたみらいもち米振興会 会長 森谷 雅美

今年の積雪量は昨年並みでしたが、平成に入って最も雪解けが遅く、春の長雨、収穫期の長雨と雨の多い年でした。

7月下旬より15度を下回る低温が続き、一時「凶作になるのでは」と心配されましたが、「低温に強い」きたゆきもちの特性が発揮され、減収を回避できました。また、今年より、すべて「きたゆきもち」となり、いもち病の発生も大変心配されましたが、徹底防除で一部の発生にとどめることができ安堵しております。

その中、水稲においては、平均反収9.2俵、歩留まり92%と品質も良く、昨年・一昨年に続き三年連続の豊作となり、実需者に安定供給できる産地の体制を整えることが出来たと思います。

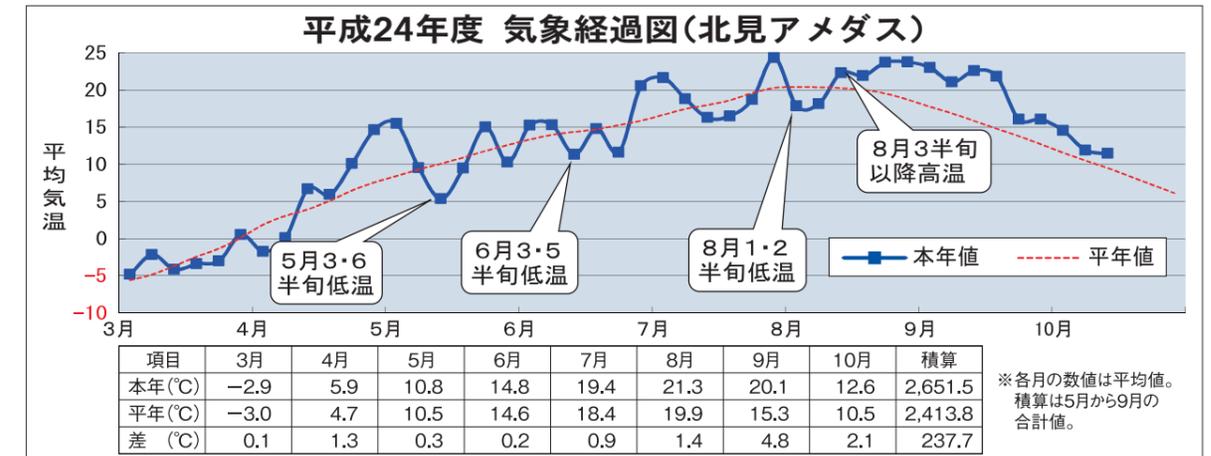
最後に、10月下旬からの長雨により収穫にご苦労された組合員の皆様には、お見舞い申し上げますとともに「安心なもち米」生産に、今後とも関係機関と取組んで参りたいと思います。

うに降雨に見舞われ、雨の合間を縫いながら刈り取るなど、苦勞の多い収穫作業となりました。本年度の収量は、規格外込みで反当平均585キ（前年599キ）でしたが、製品歩留りが高く、一等比率92・1%（前年80・2%）となり、農家個々では収量や歩留りの格差が大きい結果となりました。

不稔の多発が懸念されました。8月9日より天候が回復、登熟が始まり、遅れ穂の開花も順調に進みました。低温の影響による不稔多発も懸念されましたが、不稔歩合は12・6%と昨年より3%程少ない結果となりました。8月中旬以降は高温多照傾向が続き、登熟も非常に良好で、黄熟期は1日遅れまで回復、収穫は9月18日から始まり10月6日に終了しました。

きたゆきもち	10a反収	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
平成24年産	554kg	1等	92.4%	3.4%	4.2%
平成23年産	596kg	1等	91.9%	2.6%	5.5%

24年産の水稲は、作況指数114と冷害危険期及び出穂期に強い低温に見舞われましたが8月中旬以降の記録的な高温により3年連続の豊作となりました。収量は反当たり554キと前年を下回りましたが、品質面では着色粒が少なかったことから正歩留は昨年より高く全量1等となりました。



### 麦類 歩留り高く 全量Aランク

#### ◆秋まき小麦

出芽は昨年並みで推移し、播種量を減らしたこともあり、茎数はやや少ない状況でした。春先の融雪が遅れたこともあり、起生期は7日遅く、冬枯病の被害が若干見られたものの生育は概ね順調に経過しました。止葉期・出穂期ともに昨年並みに推移したものの、6月下旬から7月上旬に降水量が多く成熟期は2日遅れ、収穫は前年より2日遅い7月31日から始まりました。収穫期間は連日のよ

品質面では、収穫期の降雨の影響もあり、若干穂発芽が見られたものの、灰分・たんぱく・容積重・FN（フォーリングナンバー）とも基準値内ですべてにおいて4項目クリアとなり、全量Aランクとなりました。

うに降雨に見舞われ、雨の合間を縫いながら刈り取るなど、苦勞の多い収穫作業となりました。本年度の収量は、規格外込みで反当平均585キ（前年599キ）でしたが、製品歩留りが高く、一等比率92・1%（前年80・2%）となり、農家個々では収量や歩留りの格差が大きい結果となりました。

#### ◆春まき小麦

播種作業は昨年並みで進み、出芽も3日ほど早く順調でしたが、5月中下旬の低温と長雨の影響により、生育は遅れ気味に推移。幼穂形成期は昨年並みだったものの、出穂期で2日遅れ、その後も降水量が多く、8月上旬の低温もあり、成熟期は2日遅れとなりました。

収穫については、8月14日から始まり、収量は規格外込みで406キ（前年309キ）製品歩留りは高く、1等比率で88・2%となりました。品質でもすべてが基準値をクリア、全量Aランクとなりました。

### 良いものを多く

きたみらい麦作振興会 会長 河合 正福

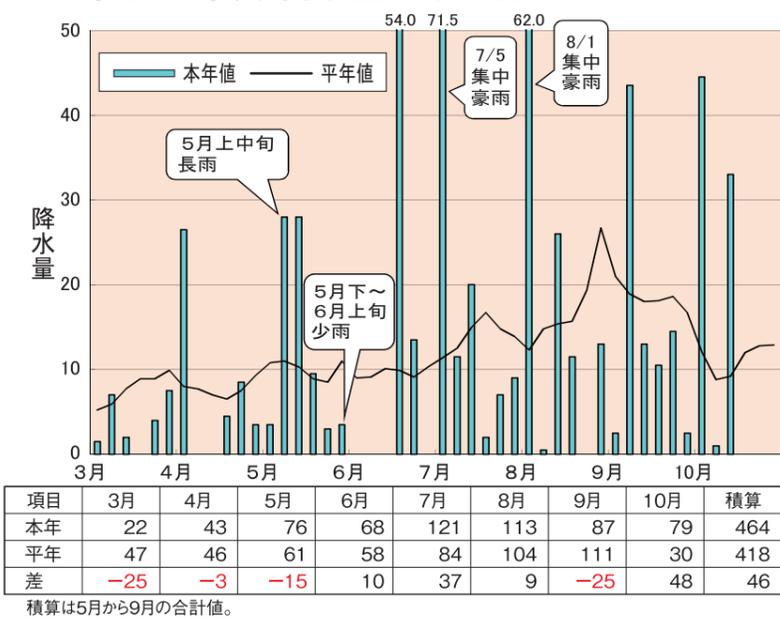
24年を振り返ると、春の融雪遅れ、5月の長雨、6月の早魃、そして収穫期間中の雨など、小麦にとっては非常に厳しい環境の年に思いました。しかし、秋小麦はきたほなみに移行して初めて、期待に近い収量を確保できたこと、また、春小麦については面積が倍増しても例年並みの収量を維持できた結果に、非常に良かったと同時にとても安心しました。

「きたほなみ」に関しては過去2年間、収穫間際の病気、高温早魃による収量・歩留まりの減少と非常に悔しい思いをしました。今年にける生産者の思いは強く、各地区で開催した栽培技術講習会に親子で参加をして熱心に聞いていた地区もあったと聞き、その表れと感じました。

この結果に関して、まだまだ満足していませんが、ここに至るまでには役員をはじめとして、職員普及センター等、関係機関の多くの皆様方にご理解を頂き協力していただいたお陰と感謝しております。

来年度に向けて、さらに「良いものを多く」を目指しますので皆様方のお力添えをよろしくお願い致します。

平成24年度 降水量比較(北見アメダス)



**特集** 平成24年産 農畜産物を振り返って



**王道を歩む玉葱産地**

きたみらい玉葱振興会  
会長 小野 洋一

ここ数年、不安定な気象が続いた中、今年こそはと願っていた平成24年、定植時期の長引く降雨、7月5日の降雹、被害に見舞われた会員の皆様には心からお見舞い申し上げます。その後、早出し時期の天候不順、その時々ので厳しい自然環境の中にあっても会員各位のたゆまぬ努力の結果、平年を上回る生産量の確保と、8・9月早出し時期の出荷に対する消費地からの要望が多くなる中、選果・出荷を休む事なく、原料確保できたことに心から感謝申し上げます。玉葱となると、販売単価に一喜一憂するところがないわけではない。しかし、JAきたみらいの玉葱となると全国各地津々浦々知らない市場はない。携わる人々も興味津々。そこで、王道を歩むことが不可欠と思うのです。全国一ということではどうしても面積の二文字が頭に浮かぶのですが、最初に浮かぶ文字を品質、次に生産量、次に出荷期間、そして安定に結びける。それに伴い今後の営農にも安定感が生まれ、いつの間にか王道を歩むことになると考えます。しかし、理想と現実とは異なります。けれど、王道を歩む玉葱産地JAきたみらいでなければならぬと思うのです。

**玉葱**  
過去平均を  
3300キロ上回る

全道では昨年の雹害廃耕もあり327鈴増加し12,168鈴、きたみらいの作付け面積は、4,398鈴となりました。植付け開始は昨年同様に始まり、4月下旬から5月連休までは順調に作業は進みましたが、その後の断続的な降雨により作業は停滞、5月20日以降の植付面積が25%程度あり大幅な遅れとなりました。5月下旬より天候が回復したこともあり、生育は順調に推移、早魘傾向となる時期もありましたが、6月

中旬及び7月上旬に、まとまった降雨があり、高温が少なくこともあって生育は順調に推移しました、特に連休まで移植した圃場では大玉傾向となりました。一方、全道では空知管内で早魘傾向となり、また大雪による植付作業が遅れたことから生育は抑制され、7月8月上旬にかけて気温上昇及び降雨が少なかったことから、肥大期に厳しい生育環境となりました。このような中で、主産地の収量は、北見V富良野V岩見沢と昨年同様に大きく差が出ました。収量は全道平均反当り5,500キと過去平均を3300kg上回る見込みとなっています。

また、品質面では前年程ではないものの、圃場での発芽や腐敗などの発生、特に白花豆や大福などに斑点が付くなど品質の低下が見られています。収量については圃場間格差があるものの大豆4俵、小豆・大福・白花は4・4俵、紫花豆で4・3俵の見込みとなっています。

**豆類**  
降雨の影響で  
収穫遅れ

播種作業は平年並に行われましたが、6月上旬の干ばつの影響により、一部発芽不良が見られた圃場もありました。その後、生育は順調に推移し、高級菜豆の開花が4〜6日程度遅れたものの、大豆・小豆は平年並の開花となりました。収穫期に入り降雨の日が多く11月中旬までの断続的な降雨の影響により、子実の乾燥が遅れ一部では11月下旬まで収穫作業が遅れた圃場もありました。

**てん菜**  
収量差多く  
低糖分

播種作業は平年並みに始まり、出芽も良好に推移しました。移植作業は平年並みに始まりましたが、降雨により2週間ほど作業が停滞、2割程度が5月下旬にずれ込みました。生育は順調に進みましたが、9月の残暑の影響で褐斑病が一部発生しました。平均収量は5・5t前後と個人差が大きく、糖分では基準より大きく下回り15・3%の見込みとなっています。

てん菜を巡る情勢は、国の政策変更、3年連続の不作、春作業の労働力不足など24年産作付面積は4,000鈴を下回り、面積減少に歯止めがかからない状況にあります。地域の基幹作物として、輪作体系上欠かすことのできない重要品目であり、地域経済の発展を図るうえで継続し作付をお願い致します。

オホーツク222、北もみじ2000は品質良好で、特に外品・クズの発生が少なく、正品歩留りの高い状況となっています。適度の降雨及び高温が少なかつたこともあり、大玉(2L・L大)規格の多い選果比率となっています。販売は府県産の極端な残量不足で、8月末まで品薄状況が続く2,500円/20kgと非常に引合いが強い状況でしたが、9月に入ると大型野菜を中心に野菜全般の低迷、残暑、各消費地に潤沢に荷物が届いたことから一転して1,500円/20kgと弱含みの状況となりました。

また、品質は極早生・早生で色が良く概ね良好ですが、一部で汚れ玉及び到着時で乾腐・軟腐の発生があり、一部でクレームの発生となり、次年度以降に課題を残す結果となっています。

現在も道内各産地の出荷、一般野菜価格低迷、消費地の温暖な気温による消費低迷、系統外出荷(商系)

◆改装状況(11月15日現在) 選果基数(一般)71,857.8基(前年同期53,313.0基)

	2L	L大	L	M	小計	長玉	加工	S	屑	合計
24年産	14.8%	45.0%	25.8%	6.4%	92.0%	0.2%	4.0%	0.6%	3.2%	100.0%
23年産	3.3%	33.8%	41.6%	12.1%	90.8%	0.2%	5.8%	1.2%	2.0%	100.0%

◆11月15日現在 北見地区共計単価1,736.05円(前年同期1,916.42円)

◆作付生産概要(11月10日現在)

	作付面積(ha)	10a収量(kg)	生産量(t)	商品化量(t)	
H24	全道	11,841	4,640	549,870	505,780
	きたみらい	4,398	5,890	258,967	248,719
H23	全道	12,168	5,500	669,290	625,710

◆系統販売計画(11月10日現在) (単位:t)

	生食				加工向け(JA扱含む)	年産合計
	合計	年内計画	年内進捗	年明計画		
24年産	385,000	249,000	64.7%	136,000	136,320	521,320
23年産実績	331,810	202,980	61.2%	128,830	94,920	426,730



**異常気象に  
負けない強い農業**

きたみらい豆類振興会  
会長 茂住 修二

本年の豆類の播種作業は概ね順調に進み、良いスタートで迎えられたと思います。その後、竹立て等の管理作業も平年並みに進み、9月上旬の役員による圃場巡回の際の作柄を見ると平年並みを見込めると期待しました。しかし、その後から11月上旬にかけての高温と長雨の影響で豆類全体が歩留り低下、更には10月中旬の強風による白花豆、紫花豆の落莢もあり、期待していたほど収量が伸びなかったと思います。断続的な降雨により大豆、小豆では収穫時期の遅延により機械収穫作業効率も低下し、苦労させられた年でありました。来年度に向けては、豆類面積の維持、また、各生産者間の交流を図りながら、連携、情報交換を行い品質、収量向上はもとより、輪作体系を守り土地改良などを行い、異常気象に負けない強い農業を目指し頑張ってください！

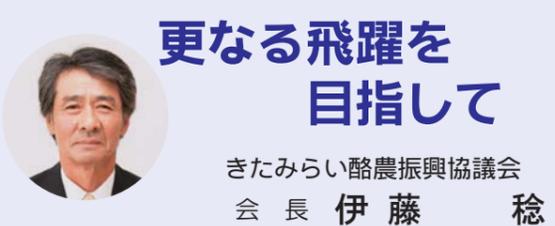


**振興に努め  
面積増反を**

きたみらいてん菜振興会  
会長 小林 一明

24年産てん菜は、植付けは平年並みにスタートしましたが、5月6日より2週間程度悪天候が続く2割程が20日以降にずれ込みました。夏場においては、ますますの生育が進みましたが、9月に入り、長い残暑の影響で一部に褐斑病が発生してしまいました。10月18日より工場操業に合わせ収穫作業も順調に進んでいましたが、11月に入ってからは雨の日が多く、収穫機も圃場に入れず作業が停滞、一部圃場では手作業で対応するなど、収穫後半は大変苦労しました。収量は平年を上回ることができましたが、糖分では9月の残暑の影響で低糖分となり基準値を大きく下回りました。近年は異常気象・温暖化により寒冷地作物のてん菜は、かつてない厳しい栽培環境となりました。また、面積においても減少傾向となっております。基幹作物であるてん菜は地域経済に大きな役割を担っております。今後においても各関係機関と連携し、面積増反も含めて、てん菜の発展振興に努めて参りたいと思います。

**特集** 平成24年産 農畜産物を振り返って



**更なる飛躍を 目指して**

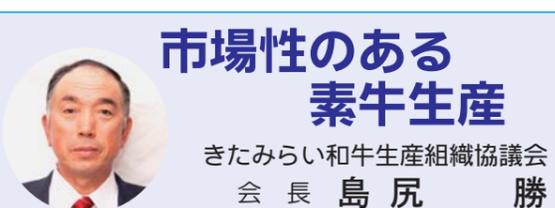
きたみらい酪農振興協議会 会長 伊藤 稔

本年は5月の連休後の長雨等に始まり、収穫時期等においても過去に例のない異常長雨により大変苦勞の多い年でありました。幸いにして、牧草・デントコーンについては、夏場の高温に恵まれ適期収穫のなかで良質な粗飼料が確保できました。

24年度の乳価は確実に生産拡大に向けた取り組みを要件に2円31銭の値上げがなされ、生乳生産目標数量では前年対比103%設定されました。協議会としても各地域で対策を行いながら増産に向け積極的に対応して参りましたが、夏場の高温と9・10月の多湿状態の気候などで、疾病・乳房炎の発生により計画目標に届かない状況にあります。

今後2年間は乳量増産が確約されているなか、本協議会としても、思い切った増産対策を計画しております。一方期待の大きい哺育育成センターも本年度をもって完成致しました。一部機械の導入等も残っていますが、今後も健全な運営に向けて、関係役職員の協力をお願いいたします。

また、T P P・消費税増税等と国益に関する問題が、世論を二分するなかで議論が行われておりますが、オホーツク管内出荷乳量一位の実績に誇りを持ち、協議会として今後の活動に積極的に取り組んで参ります。



**市場性のある 素牛生産**

きたみらい和牛生産組織協議会 会長 島尻 勝

今年は夏の高温、秋の長雨と、異常気象の一年となりましたが、収穫時は好天で一番草、二番草ともに品質、量ともに一定以上のものが収穫されました。

今年の和牛は、宮崎県の口蹄疫、東北地方を襲った東日本大震災等の影響で、素牛の頭数が全国的に不足、結果的に比較的安定した価格で取り引きされております。しかし発育、血統等、肥育結果の期待出来る牛でなければ、高値販売は難しいのが現状です。

北見市場は毎月400~450頭上場されます。そのうち、きたみらいでは40~50頭出荷しています。当協議会としては、新規推奨種雄牛利活用事業、優良繁殖牛造成支援事業、優良肥育素牛生産奨励事業等を実施、市場性のある素牛生産に努力しています。

和牛生産は、年月のかかる仕事です。2年後、3年後が期待されます。来年も日々手を抜かず飼養管理をしたいものです。

2013年が良い年になりますように。

**乳用牛 資源不足から 堅調に推移**

24年度は生乳増産基調に加え、乳価の値上げとF1授精率の影響から、中旬まで及ぶ異例の残暑の影響により、乳肺炎の発生等から増産時期に伸び悩みました。

ブル乳価は、相次ぐ離農や生産資材の高止まり、T P P交渉の先行き不安などで生産基盤の弱体化が懸念されるため2円31銭の値上げとなりました。

J Aとしても酪農家の求めに対応すべく、生産技術や経営助言を実施し、各種情報の提供に努めて参りました。

さらに生産基盤の強化と生産性の向上に資すること、飼料自給率の向上を目的に、牧草品質向上奨励対策事業や地域粗飼料資源活用事業を継続的に実施しています。また、近年危惧される伝染病から、より一層の衛生対策が求められている状況を踏まえ、畜舎環境改善向上対策事業も継続的に実施しています。衛生的乳質は長引く残暑の影響を受け、昨年を下回る結果となりました。

初妊牛出回り頭数の減少、資源不足から相場としては比較的堅調な価格で推移しました。

年明け以降においても、購買も多くなることから強含みの相場に転じることが想定されます。

**肉用牛 生産費上昇で 厳しい環境**

肉用牛経営を取り巻く環境は、昨年のセシウムの稲わら汚染で始まった牛肉の風評被害と、生食事件が払拭されない状況に加え、不況による需要の減退や、消費者の低価格指向等による枝肉価格の低迷、飼料を中心とした生産費の上昇で厳しい環境下となりました。

このことから、保証基準価格を下回った場合に交付される、肉用子牛生産者補給金及び肉用牛肥育経営安定特別対策事業が発動されています。和牛素牛については前年より2万

◇生乳生産実績

区分	目標数量(t)	23年度実績比	24年4~10月数量(t)	進捗率
全道	3,894,611.00	103.0%	2,252,049.00	57.8%
管内	577,109.20	103.6%	332,945.00	57.7%
きたみらい	94,415.00	103.0%	54,275.10	57.5%

◇衛生的乳質実績(24年4~10月)(前年比)

項目	全道	管内	きたみらい
生菌数(1.4万以下)	98.5% (-0.2)	98.4% (-0.3)	97.9% (-0.8)
体細胞数(30万以下)	97.5% (-0.6)	96.8% (-0.1)	97.2% (-1.1)

円程度高い384千円で取引されました。

◇共計男しゃく改装状況(11/15現在)

年産	3L	2L	L	LM	M	S	小計	B品	空洞	屑	合計
H 24	0.6%	5.8%	26.0%	14.9%	23.4%	8.5%	79.2%	12.2%	5.0%	3.6%	100%
H 23	0.4%	4.6%	23.8%	15.3%	27.2%	13.1%	84.4%	11.8%	0.6%	3.2%	100%

◇北見地区共計販売単価(11/15現在) 768.82円/10kg(前年同期1,098.82円)

本年産の播種作業は、融雪が遅れたものの昨年より2日早い開始となり、5月上旬まで順調に進みましたが、連休終盤以降周期的な降雨により作業は2週間ほど中断し平年より5日程度遅れました。

道内の馬鈴薯の作付面積は、29,345畝となり前年に対し21.4%増加したものの、依然男しゃく・メークインは減少傾向にある一方、シストセンチュウまん延防止対策など抵抗性のある品種の作付が増加傾向にあります。

植え付け以降の生育は、湿害により一部発芽不良の圃場がありましたが順調に萌芽し、6月上旬まで低温早魃傾向で推移したものの、6月中旬・7月上旬の降雨と平年並みの気温、平年を上回る日照時間、病害の発生も少なく塊茎肥大は順調に進みましたが、植え付け時期の早晚による生育の差は生じました。

全道的に見ると産地間の差はあ

るものの、総じて順調に推移し平年並みの収量となりましたが、地域別にみると十勝地方が高い収量となっています。全道平均で男しゃく反当収量3,280<sup>\*</sup>、北見地区では3,380<sup>\*</sup>となりました。

品質面では、8月の降雨による圃場滞水と、記録的な残暑が続いたことによる、高温多湿状態での雑菌による腐敗の発生が多く、倉入後において腐敗進行も見られました。また馬鈴しょ塊茎は高温環境が続いたことにより内生休眠期間が短縮され、一部発芽の発生も見られました。この状況は全道的な傾向でもあり、産地によっては大きく商品化率が低下している状況にあります。

販売環境は、春先から九州産(鹿児島・長崎)の後ずれ、関東近在産地の豊作から供給過多の状況が続き、極端な市況低迷の中でのスタートとなりました。野菜全般の市況低迷に加え、記録的な残暑の影響により馬鈴しょの量販体制は整わず、荷動きは悪く厳しい販売環境が続きました。

加工馬鈴薯の販売環境は、前年産原料の使用が後ずれし、市況低迷による府県産の安価な原料調達されるなど、道産の切り替えが遅れ、チップ原料で供給過多から未成約品について他用途転用が行われました。

今後の販売については、消費地の気温低下に伴い動きは回復し、市況は緩やかな浮揚で推移をしている状況にありますが、本年産の厳しい

**生乳 残暑の影響で 乳量伸び悩む**

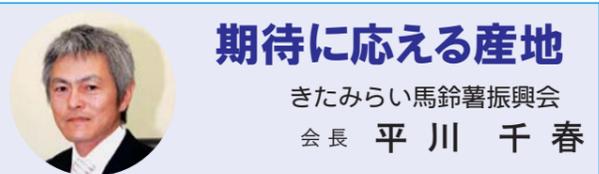
近年の生乳需給は、景気動向や気象条件、海外諸情勢など複雑な要因の中で短期的に大きく変動している中、全国に占める北海道の生乳生産の役割が一層高まっている状況にあります。

一方で、全国的に酪農家戸数の減少傾向には歯止めがかからず、生産基盤の脆弱化がより進行することが懸念されています。このようななか、

中長期的には、本道酪農の生産基盤の維持・拡大、オール北海道としての生乳の安定供給体制の確立、酪農経営の安定等を図るため、24年度全道生乳生産目標数量伸び率は、23年度全道生乳受託実績に対し103%で設定されました(アローワンスは、需給動向を踏まえ0・5%設定)。

粗飼料は収量・栄養価共に一定以上のものが確保されたものの、9月

生産環境による品質低下の懸念、九州産秋馬鈴薯の豊作基調、依然と続く一般野菜の低迷など、不安材料が多い状況にあります。販売環境を注視し、良品質出荷に向けた管理を行い、価格浮揚を目指して参ります。



**期待に応える産地**

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 平川 千春

春の融雪期は遅れ、春耕期ピーク時には降雪による作業の停滞、生育期にはゲリラ豪雨、秋こそは安定した気候が期待できると思えば、9月中旬まで記録的な残暑、その後断続的な降雨と馬鈴薯のみならず全ての作物において苦勞の多かった年ではなかったでしょうか。

そのなかで馬鈴薯の収量予想は平年作を見込んでいたものの、選果が始まると高温の影響とみられる腐敗の問題、それが落ち着くと発芽懸念と、なかなか安心できる要素を見つけない年産になりそうです。

とはいえ、生産者個々の高い生産意識のおかげで市場や各ユーザーからの「きたみらい産馬鈴薯」に寄せる期待は年々増してきていると実感しています。また、本年は検討を重ねてきた待望の「馬鈴薯集出荷施設が」リニューアルを遂げました。今後、更に安定した品質の馬鈴薯を消費地に届けることができると期待しているところです。

生産者の皆さん、今後とも多くの期待を寄せられている産地としての役目を果たすため、これから更に多くのきたみらいファンを増やすために、高品質で安全なものを届けられるよう頑張りましょう。

**馬鈴薯 厳しい販売環境**

やく反当収量3,280<sup>\*</sup>、北見地区では3,380<sup>\*</sup>となりました。

# 今年の収穫物を みんなで味わう

## ～ジュニア4HＣ 収穫祭で餅つき～



▲美味しそうにシチューを食べる子どもたち

相内地域ジュニア4Hクラブ（北町靖支援父母の会々長）は11月17日、西相内多目的地域会館で、収穫祭が盛会に行われました。

収穫祭には会員とその父母、北見市、農業改良普及センター、西相内連合会長、JA職員など関係者あわせて61名が参加しました。

会場には、播種から収穫までの作業の様子や、夏に行われた「ふるさと見学会」の写真が展示され、今年

の活動を振り返っていました。

収穫祭では、恒例の餅つき大会のほか、どん菓子や綿あめ作りなどが用意され、本年、同クラブの活動で収穫された玉葱・馬鈴薯・人参は会員の父母によって美味しいシチューとなり、参加者全員で味わいました。その他にも焼き肉が用意され、参加者全員お腹いっぱいになるまで楽しみ、みんなで親睦を深めていました。

# オリジナル ソーセージ作り

## ～施設見学などに 8名が参加～



▲腸詰めのコツを真剣に聞き入る部員のみなさん

女性部温根湯支部（永江美貴子支部長）は、11月19・20日の2日間、部員8名が参加し視察研修を行いました。

研修先は札幌市の「白い恋人パーク」と北広島市の「くるるの杜」の2ヶ所。1日目の「白い恋人パーク」では、「白い恋人」ができるまでの一連の工程を見学。見学後は定山溪に一泊し、懇親会では今年1年の農作業などを話題に盛り上がりました。

2日目の「くるるの杜」では、ソーセージ作りを体験。香辛料を自分で選び、豚肉を天然の羊腸に詰めて自分だけのオリジナルソーセージを作りました。出来上がりの試食では、「美味しい。ビールが欲しくなるね」と大満足。体験後は同施設内のレストランにて、道産食材のランチバイキングを堪能。リフレッシュして帰路につきました。

# 東 西 南 北

▼巧みにショベルを操縦し、収穫する中塚さん



KAMITOKORO



# ねばり、品質 ともに上々

## ～長いも収穫作業 一週遅れで開始～

上常呂地区広郷の中塚一男さんは11月2日、長いもの収穫作業を始めました。

同地区の長いも耕作者組合の組合長を務める中塚さんは、約10年前から長芋を作り始め、以後、毎年「長いも祭り」に参加、その出荷に間に合うよう、10月下旬には収穫を行っていました。

本年は9月の暖かい気候が影響し、長いもの成熟が遅れたため、収穫期

は例年と比べ一週間ほど遅れ、その影響で、長年行なわれてきた同祭りは開催以来初の延期となりました。

中塚さんは「今年は施肥量を抑え、早めに成熟するよう気をつけた。先日、ために掘って食べたが、粘りも強く、おいしい物が取れた」と話してくれました。

同地区の長いもの作付けは、約3鈴、60トの収穫を見込んでいます。

▼車の窓越しにチラシと農産物を配る女性部員



OKETO



# 交通安全で！ と呼びかけ

## ～交通安全街頭啓発に 部員8名が参加～

女性部置戸支部（中澤ひさ子支部長）は、11月1日に交通安全街頭啓発をJA地区事務所前にて実施しました。

この活動は毎年、北見警察署置戸駐在所の協力を得て実施されていて今年も、各部員が栽培したカボチャや玉ねぎやジャガイモなどの農産物を袋詰めし、安全運転のチラシと一

緒にドライバーに配布しています。

朝からポカポカ陽気のなか、参加した部員は「安全運転でお願いします」など呼びかけ、約50袋の農産物の袋を、一人ひとりに手渡しました。思いがけないプレゼントにドライバーは「わかりました」と笑顔で安全運転を誓ってくれました。

# ダンボールと チーズ製造を視察

～道内視察研修に  
12名が参加～



▲ロールケーキ作りを楽しむ子どもたちと会員のみなさん

フレッシュミズ北見支部（中嶋里美支部長）は11月29～30日の2日間、道内視察研修を行い、会員と子供合わせて12名が参加しました。  
初日は芽室町の池田ワイン城と帯広市の北海道森紙業㈱を視察、同社ではダンボールの生産工程を見学しました。同社はきたみらいの特別栽培のダンボールなどを製造しており、会員からは1枚当たりの製造原価な

どについて質問されていました。  
翌日は芽室町の明治の工場内にある十勝チーズ館で製造現場を視察。会員は機械化が進む工場内を見て回り、生乳からチーズが作られる様子を驚きながら興味深く見学していました。最後に音更町の柳月スイートピアガーデンでケーキ作りを楽しみながら体験、無事研修を終えました。

# 端野特産物に 長い列

～JAみやぎ仙南地区  
フェスティバルに参加～



▲端野特産物を販売する訪問団

端野町観光物産協会会員およびJAきたみらい等で組織された丸森町訪問団13名は、11月3～4日に行われた第15回JAみやぎ仙南地区フェスティバルに参加しました。  
同祭りでは、北見市端野町の姉妹都市である丸森町と訪問団が、端野町の農産物や加工品の販売を行いました。前月、開催された端野農業物産フェアでは、丸森町から訪問団が

親密な交流が図られています。  
訪問団とともに、空輸された玉葱・馬鈴薯などの農産物及び玉葱ドレッシングやふりかけなどの加工品を、昨年より物量を大幅に増やして販売。毎年実施されていることもあり、玉葱・馬鈴薯を求め、ブースの前には多くの人で行列ができていました。運び込んだ農産物は2日間で全て完売しました。



▼下込支部長にアドバイスを求める会員の皆さん



KUNNEPPU 訓子府

# ブレスレットで ともだちの“輪”

～支部間交流に  
23名が参加～

フレッシュミズ温根湯支部と訓子府支部の支部間交流が11月26日、センター事務所で行われ、両支部会員合わせて23名が参加しました。  
各支部間のより親密な交流を目的とし開催され、フレッシュミズでは今年で2年目の開催となります。青年部、女性部でも同様の取り組みがされ、各支部間で多彩な内容の企画が行われています。

今回の支部間交流で行われたのは「ブレスレット製作」。参加した会員を前に、温根湯支部下込裕美支部長が講師となって、それぞれが独自のセンスでお洒落なものから最新鋭的なものまで、素敵なおリジナルのブレスレットを作りました。  
会員からは「楽しかった。普段から使えそうで嬉しい」との声があがっていました。

▼退牧のため1ヶ所に集められた若牛



RUBESHIBE 留辺 薬

# たくましくなって 久々の里帰り

～花園牧場  
若牛240頭が退牧～

留辺薬地区・瑞穂の花園牧場では11月2日、一斉退牧が行われ、留辺薬地区12戸の農家が預託した乳牛200頭・和牛40頭の若牛が退牧しました。  
当日はあいにくの雨模様でしたが、5月中旬からの約5ヶ月間の間に、100頭の広大な牧場の中で大きくたくましく成長した若牛は、元気よ

く次々とトラックに乗り込み、久々の我が家へ帰って行きました。  
花園牧場利用組合の長瀬順一組合長は「今年の若牛は発育がよく、肉付きも良いので非常に満足している。来年もこのような成果ができるように頑張りたい」と笑顔で今年の成果を評し、来年の意気込みを話してくれました。

# 私のパートナー



今月号の「私のパートナー」は、人柄の良さが溢れ出ている林慎也さんと、元気いっぱいの素敵な笑顔で惜みなく振りまいてくれるみおさん夫妻を紹介します。

**あふれる幸せ！  
ずっと仲良くなね！！**

訓子府町・駒里  
林 慎也さん(26歳)  
みおさん(26歳)

- Q 結婚されたのはいつですか？**  
平成24年の3月です。
- Q 知り合ったキッカケは？**  
出会いは訓子府町青年団体連絡協議会で、みおさんが友人の押しに負けて同会に入会、出会うことになりました。
- Q 初めて合った時の印象は？**  
慎也さん…「笑顔が素敵★」  
みおさん…「可愛い☆」
- Q 休日の過ごし方？**  
休みの日は二人で買い物や美味しいものを食べる出かけます。
- Q 互いに感謝しているところは？**  
慎也さん…「家族とすぐに溶け込んでくれたことです」  
みおさん…「忙しいときに家事をしてくれることです」
- Q 今後の目標は？**  
ケガなく健康で、仲良く続けていければ良いなと思います。余裕ができれば、新婚旅行で行った沖縄にもう一度行きたいです。



**【写真説明】**  
各々が作った力作を前に「ふうせんポピーの会」メンバーで記念の1枚  
(井上さんは前列左から2番目)

端野地区・一区  
井上 二美子さん(61歳)



## 思い出の写真 ドライフラワー作り

この写真は、今から20年程前に「ふうせんポピーの会」メンバーで撮った写真です。「ふうせんポピーの会」は、25年程前に町内公民館講座「ドライフラワー」に参加したのがきっかけで、講座終了後に仲間15名程で結成された団体です。

公民館講座でも講師をしていた水ロー枝先生を迎え、冬場を中心に5回程度講習会を開催、ドライフラワー、リース等を作りました。作品が端野町の文化祭とNHKのギャラリーに展示されたこともあります。活動が終了するまでの約15年間はメンバーもあまり変わらずに楽しく活動が出来たことで、今ではいい思い出だそうです。

また、同地区のメンバーと2人でドライフラワーの販売もしていたそうで、太陽まつりでの出店、札幌の東急や滝上町等で販売したこともあったそうです。もともと花が好きだったことがきっかけで参加した講座を通し「ドライフラワーと出会い楽しく活動が出来たこと、それから講師や仲間へ感謝しています」と話してくれました。

## My Taste 天体観測

古瀬さんの趣味は天体観測です。天体に興味を持ったのは中学生の頃、友人が望遠鏡を持っていたことがきっかけです。夜になるとしばしば自転車で友人の家に行き、朝方まで夢中で空を観察しました。

8年前には、自宅から300ほど離れた場所に観測専用のプレハブを建てました。自宅の周辺や市街地では大気に熱があり、天体がぼやけてしまうためです。観測は望遠鏡(写真左)で観察対象となる天体を探し、反射望遠鏡(写真右)を使って天体の写真を撮影します。

今年は金環日食や金星の太陽面通過など珍しい現象がありましたが、場所や天候などの条件が揃わなければ観測できないことが難しいところです。2009年、日本では唯一沖縄地方で皆既日食が観測された時には、仲間と一緒に中国まで足を運びました。

これまで観測を続ける中で心に残っているのは、しし座流星群やヘール・ホップ彗星を肉眼で家族や仲間と一緒に見ることができたことです。「望遠鏡で見たものは自分には分かりませんが、肉眼で見たものは皆で感動を共有できます」と笑顔で話してくれました。

最近では彗星を観測しているという古瀬さん。「彗星はいつ現れるか分からないし、一度観測できたものが再び現れるとは限らないが、これからも観測を続けていきたい」と話してくれました。



北見地区・北陽  
古瀬 進一さん  
(49歳)



▶ 観測に用いる望遠鏡(左)と反射望遠鏡(右)

# ほのぼのの広場



きたみらいの  
ホープさん

**品質を落とさずに**

端野地区・緋牛内  
館野 清志さん(23歳)

清志さんは、秋まき小麦、甜菜、馬鈴薯、小豆、ペコロスなどを栽培する馨さん、二美江さんの次男です。

- 趣味は？**  
DVDやビデオ鑑賞です。
- 好きな食べ物は？**  
鶏のから揚げ。
- 嫌いな食べ物は？**  
ゴーヤチャンプルー、セロリなど(苦いものが苦手です)。
- 理想の女性？**  
おしとやかな人が好きです。芸能人と言えば山本梓さんです。
- 結婚はいつ頃までに？**  
生きていううちには(笑)。
- 農業に対する抱負は？**  
来年は作付面積も増えるなか、農業大学校で学んだ知識も生かしながら、品質を落とさずによりよい物を作っていきたいです。

2月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部？支部の？さんを予定しています。広報編集委員が、突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。

# まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分があります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



## 11月号クイズの当選者

11月号のまちがいさがしの答えは「1. 3. 5. 8. 10」でした。正解者44名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの大坪常務にお願いしました。

( )内は支所名

- ・吉田 禮子さん(温根湯)・吉田 秀子さん(上常呂)
  - ・田中 利枝さん(留辺蘂)・亀谷 拓矢さん(北見)
  - ・穴戸 正司さん(置戸)・佐藤 真恵さん(端野)
  - ・小山田 万里子さん(訓子府)・丹羽かなえさん(端野)
  - ・田原トシ子さん(相内)・佐藤 優成さん(端野)
- 以上の方々には、日の出めん(訓子府町)の半生うどん(6人前)をプレゼントします。

## 応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、白花豆の甘納豆「白花美人」(5袋)をプレゼントします。

# 大きくなったら



井上 優奈ちゃん (7歳)  
 希音ちゃん (2歳)  
 杏胡ちゃん (5歳)

## ペットショップの店員さん

わたしは動物が大好きなので大きくなったらペットショップの店員さんになりたいです。うさぎやネコやイヌが大好きで、たくさんお世話して、一緒にあそんであげたいです。

## アニメのプリキュアに

かわいいプリキュアがだいすきなので、プリキュアになりたいです。

井上一味さん、幸恵さん夫妻の三姉妹(真ん中は三女の希音(のん)ちゃん(2才))。週一回ピアノ教室に通っていて、取材当日は日頃のレッスンの成果を披露してくれた笑顔がキュートな仲よし姉妹です。

# ほのぼのの広場



温根湯地区・昭栄  
 児玉 凜ちゃん(2歳1ヶ月)  
**すべり台が大好き!**

とても明るく人見知りをせず、元気いっぱいな凜ちゃん。取材当日も出迎えてくれて、元気に走り回っていました。好きな食べ物はイチゴ、テレビはアンパンマンとディズニー映画を見るのが大好きで、アンパンマンのぬいぐるみがお家にたくさん並んでいます。好きな遊びは室内にあるすべり台とジャングルジムで、取材中も元気に何度もすべっていました。最近はテーブル拭きなど、お掃除のお手伝いをしてくれるとのこと。そんな凜ちゃんにお父さんは、「これからはおかげも覚えてほしい」、お母さんは、「健康で、元気でやさしい子になってほしい」と話してくれました。

凜ちゃんは、児玉渉さん、香織さん夫妻の長女です。

## おらがまちの

# 昔の苦勞が今の幸せ



訓子府地区・柏丘  
 坂本 勤さん(81歳)  
 英子さん(79歳)

気がとらん家 まし視ま牛営 るてをも屋たっは働  
 いくも一作で族何し、買しとを25ま`か吹に。飛馬い小  
 ったあと業手かよた社なた養継歳で巧けつな心ば2た学  
 は1りお機伝らり。会。豚承でにみた飛りのさ頭動生  
 いをま小い頼農。結なに馬びた片れのさか  
 で操す言にま作 動々さ先畑婚り馬と`い隅て力んら  
 す縦がを近すれ業 になん駆作しま耕の男`に宙に。大  
 す、頂か危と好 尽職保に加28たう闘づいっ舞度う柱  
 る今戴か危と好 力を安導え歳。ウをううたいどウと  
 なでもすな喜き さ歴林入、で を制イ思電まも耕し  
 どもるいいびで 元トこでか勇、 れ任監し乳経 操しどい気し吹て

つ在をフ踊趣會発支な れしい借試いた家一はは女  
 てが兼ルを味滋展部がそて、うりに行に。畜方す、と訓  
 い、ねさ続でのに長らんしそ作`錯慣英はでて23し子  
 ま幸備とけは子ごをもなまれ戦勤誤れ子お英に歳て府  
 すせえ優て10守`大いもにさのるさら子家で生町  
 。なたいし年り力め農変まあ出ん結こんずさ畜結ま柏  
 家英さる以がさら協なしえまに果とは、んが婚れ丘  
 庭子とな上楽れれ婦苦たなしな、がな初の導。たの  
 のさ華どもし、人勞。くたり作でか対実入坂英農  
 礎ん麗、日みし地部を 見。き業さな面家さ本子家  
 とのさパ本で、の丘ね らかとを`扱しは、でん次

とても答えやすく、楽しかったです。  
 私はまちがいさがしが大好きで、応募のしかた  
 がかんたんなのですごよかったです。  
 (上常呂地区・吉田 優妃奈さん)

まちがいさがしを楽しんでいただきありがとうございます。  
 これからも挑戦してくださいね。

前回、当たって良かったー。  
 また当たるといいですねー!  
 (端野地区・館野 学さん)

10月号での当選、おめでとうございます!  
 今回は残念ながら外れてしまいましたが、また送っ  
 てくださいね。

## 読者の声

毎回料理のレシピを楽しみにしています。  
 家族に作って食べてもらう事もしはしはです。  
 作りやすいレシピなのでこれからも楽しみにしていま  
 す。  
 (上常呂地区・山本 美枝子さん)

レシピを見ているとおなかがへってきますよね。これか  
 らも、みなさんの食卓に並べてもらえるようなレシピの掲  
 載を目指します。お楽しみに!

今年の仕事もやっと終わりました。いよいよ冬ご  
 もりです。体重が増えないように毎日の運動と  
 ゆっくりとした時間のティータイムかな!  
 (温根湯地区・大関 博子さん)

長い北海道の冬、適度に運動もしながら、ゆっくりとし  
 たティータイムでリフレッシュしてくださいね。

青年部

留辺察支部 最優秀を受賞 オホーツクJA青年部研修大会

オホーツクJA青年部協議会は、11月16、17日、第42回オホーツクJA青年部研修会を北見市温根湯で開きました。大会テーマに「一致団結」を掲げ、14単組から120名(当青年部45名)の部員が出席しました。JA青年部活動実績発表や基調講



▲オホーツクJA青年部協議会の平岡会長より最優秀賞を受ける荒支部長(右)

演、分科会、PPP交渉参加反対に関する決議を採択しました。大会では、「魅力ある農畜産物を生産しよう」「実践的な活動を展開し食農教育を通じて想いを伝えよう」「自分達の信念や想いを次代へと繋げよう」の3実践事項を決議しました。

活動実績発表では、当JAから留辺察支部と端野支部が発表。留辺察支部(荒支部長)は4年間の食育推進計画を立てて、小麦や馬鈴しょ、牛乳、玉ねぎの「できるまでシリーズ」をDVD4部作にまとめ、食の大切さや食を支える農業の役割を消費者に伝える食育青年部設立の取り組みが評価され、最優秀賞に選ばれました。12月6日に開かれる全道青年部研修大会での活動実績発表で、オホーツク代表に選出された荒支部長は「今までの活動が評価されたことはとてもうれしく、部員と供に喜びたい。また、全道大会でも自信を持って活動内容を披露したい」と意欲を示していました。

女性部

JA運営に 積極的な参画 JA北海道女性大会

JA道女性協議会は11月8日と9日の2日間、札幌市内のホテルで創立60周年を記念する「第51回JA北海道女性大会・北海道家の光大会」を行い、道内の女性部員約560人が集まり、JAきたみらい女性部からも役員11名が参加しました。同協議会の岩永かずえ会長は大会冒頭のあいさつで「JA運営への積極的な参画などが期待されている。実行最終年を迎えたJA女性組織基本方策の基本である『気付く』『見直す』『行動する』を再確認しよう」と部員に呼びかけました。

また、創立60周年を記念して歴代の会長2名の表彰が行われ、第14代会長を務めた伊藤久美子さんと第15代会長の河田さえ子さんに感謝状が贈られ、その後、「家の光記事活用体験発表」が行われました。2日目は女性部員による「手作り工夫展」と、昨年に続き2回目となる「農作業着ファッションショー」を鑑賞しました。同ショーではアイデアを活かした作業に役立つ帽子やつなぎ、エプロンなどを身につけて



▲大会に参加したJAきたみらい女性部役員の皆さん

フレミズ

7競技に 熱戦と爆笑 フレッシュユミズ運動会

JAきたみらいフレッシュミズ(菅野あけみ会長)は11月14日、訓子府町のスポーツセンターで8支部合同の「運動会」を開催し、会員65名が参加しました。8支部統一活動として、設立当初



▲みんなで手をつないで「フラフープリレー」



▲元気よく選手宣誓

から取り組んでいた「会員研修会」を平成21年度から「運動会」として開催し、今回で4回目となりました。

参加した会員たちは、支部混合の赤・青・緑・水色・オレンジの5チームに分かれ、フラフープリレーや「作業着お着替えリレー」「綱引き」など7種目が行われ、熱戦を繰り広げました。フラフープリレーではチームの仲間が横一列に並び、手をつなぎ足をひもでしばって、フラフープの輪の中を体を通していく競技。

思うように頭や足を動かせず、参加者は悪戦苦闘し、笑いを誘っていました。終了後は同地区事務所「懇親会」を開き、楽しくお弁当を食べるかわら、運動会の話や日頃の子育ての話題などで盛り上がり、アトラクションの「ランキング並べ替えクイズ」や「ジャンケン大会」なども行われ楽しいひとときを過ごしました。



▲すばやく着替えて、ヨーイドン!「作業着お着替えリレー」



▲「ラスト1球」入りますように!

# INFORMATION

## 「長いも」1時間で完売

### 長いもまつり & 収穫感謝祭

当JAは野菜振興会の長いも・ごぼう部会と協力し11月17日、「長いもまつり&収穫感謝祭」を北見市サンドームで開き、約3500人の地元消費者でにぎわいました。

今年は、9月になっても高温が続き、その影響から収穫時期が遅れ、



▲長いもを買い求めに訪れた来場者

収穫作業時期になると今度は、連日の降雨に悩まされ、開催が危ぶまれるなか、1週間延期し開催されました。坂下専務は、「苦勞の連続だったが、今日のために、収穫作業に頑張ってくれた」と生産者をねぎらい、「長いもをはじめ、たくさん越冬野菜を揃えました。安全・安心なきたみらい産の野菜を食べてほしい」と来場者に挨拶しました。

会場には、約20トの長いもをはじめ、30種類の農産物が並び、1時間で完売する大盛況となりました。

訓子府町駒里の後藤吉一さんは、「道内や府県の親戚と友人から特産物が届けられるので、お礼に上呂産の長いもを毎年贈っている」と話し、10入り長いも5箱を購入し、宅配便に住所を書き込んでいました。

## 出前授業で豚汁づくり

### 訓子府町クリーン農推協

クリーン農業に取り組み生産者でつくる訓子府町クリーン農業推進協議会は11月16日、訓子府町小学校で出前授業を行いました。

「訓子府を食へよう」と題し、地元農産物に関心を持ってもらうため、生産者から栽培の話や聞き、課題を追求することを目的としています。

同協議会は、活動を始め今年で17年目。町内の玉葱振興会の「有機栽培の会」、馬鈴薯耕作組合の「減農薬研究会」など6つの生産組織で構成されています。

同校の出前授業は、5年生の総合学習の1つとして8年目になり、この日は平田康弘会長ら10人が訪問しました。同協議会のメンバーで、「昔がえりの会」の今野雅祐会長が玉ねぎの栽培から流通までを説明した後、児童ら38人とともに豚汁を作りました。

材料の玉ねぎ、馬鈴しょ、ごぼう、豚肉、味噌などは訓子府産。協議会



▲指導を受けながら豚汁づくりに挑戦する児童

メンバーが米のとき方や野菜の切り方を指導しました。

小野紘大君は「地元の野菜や肉を使って、みんなで作った豚汁はおいしかった」と笑顔で話し。平田会長は、「今日の授業を機に、身近な野菜にもっと興味を持ってほしい」と呼びかけました。

## 自慢のうちごはんを披露

### オホーツクお土産地展 農家のうちごはん展

農家の主婦が作る家庭料理を楽しむ「オホーツクお土産地展(じてん)農家のうちごはん展」が11月8日から3日間、市内のレストランで開催され、大勢の来場者で賑わいました。

同管内の建設業者らが2008年に「オホーツク21世紀を考える会」を結成し、地場加工品を紹介する小冊子「お土産地展」を発行。同年から「実際に食べてもらおう」と実行委員会を発足させ、お土産地展を開いてきました。

マーチのつくね、置戸でヤーコンを栽培する有馬郁子さんは「ヤーコンの肉巻き」を作りました。

この他にもユニークな13品が並び、来場者は地ビールとともに農家の味を満喫しました。

実行委員会事務局の大沼満さんは「家庭で地元食材を使った料理のパートナーが増えるきっかけになってほしい」と期待を寄せていました。



▲「自慢のうちごはん」を楽しむ来場者

## 「削蹄師」にスポット

### 「あぐり王国北海道」 北見市神田牧場で収録

JAグループ北海道がスポンサーのテレビ番組「森崎博之のあぐり王国北海道」(12月1日HBC放映)の収録が11月17日、北見市広郷の神田典廣さんの牧場で行われました。きたみらいでは今回で6回目の収録になります。

今回の収録では、「北海道農業の応援団長」と自任するチームナックスリーダーの森崎博之さんとオクラホマの藤尾仁志さん、HBCの佐々木佑花アナウンサー、あぐりっこ隊の4人の子どもが参加しました。

今回の収録テーマは、「おいしい牛乳は健康な牛から!牛の健康を守る削蹄師」と題し、牛の爪を切るプロの削蹄師にスポットをあてました。



▲爪切りの専門道具の使い方を教わる出演者

片山削蹄所の片山正幸代表取締役をはじめ、12人の削蹄師が牛の爪切り作業に励む様子を見学しました。

この後、上ところコミュニティラザで酪農家の奥さんが料理した「クラムチャウダー」と「ミルクパン」、「きたみらい牛乳」と同牛乳を使った「ミルクプリン」の牛乳料理4品を味わいました。

収録に協力した神田さんは、「牛の健康に気をつけながら、おいしい牛乳を搾乳していることを知ってもらえれば最高です。そして、もっと牛乳を飲んでほしい」と熱いメッセージを送っていました。

# INFORMATION

## アイスに見る児童歓声

### 小学校に2600個提供

北見地区農振協

JAきたみらいと北見、訓子府、置戸3市町、オホーツクNOSA、網走農業改良普及センターでつくる北見地区農業振興連絡協議会は11月1日、地元産牛乳で作ったアイスクリーム計2600個を、3市町の全25小学校に一齐に届けました。地元農畜産物に親しんでもらおうという食農教育活動の一つで、今年で3回目となります。アイスクリー



▲冷たくておいしいアイスクリームに笑顔いっぱい6年生

▲アイスといっしょに届けられたパンフレット「みんな牛乳飲んでる？」



△は置戸産の生乳を原料に、同町の乳製品製造施設「置戸町夢見館」で製造した「OKETTO 夢色えのぐ」(パンフレット)。  
贈呈にはパンフレット「みんな牛乳飲んでる？」も添えました。同町の酪農家3戸も登場し、「酪農家の1日の仕事」「酪農の大変なところ」「牛乳の栄養素」などのテーマをQ&A形式で解説するとともに、子どもたちへのメッセージもつづっています。北見市大正小学校では2日の給食時にアイスクリームを配布。5、6年生の子どもたちは歓声を上げて喜び、6年生の斉藤愛結さんは「牛乳の香りがしておいしい」と満足そうでした。  
添えられたパンフレットについて、清水洋人教頭は「酪農家の思いが伝わり、説明文が分かりやすい。酪農家の仕事を理解し、牛乳を飲む児童も増えるでしょう」と期待を寄せていました。

## 高品質シソ油を抽出

### 端野町シソ耕作組合

端野町北登地区のシソ蒸留場で10月25日から、香料用の油を抽出する作業が始まりました。

16戸の農家が端野町シソ耕作組合を作り、かつて特産品だったハッカに代わり、東京の香料会社との契約栽培で22、8畝を作付けしています。シソ栽培は草取り、はさ作り、刈り取り、はさ掛けなど多くの人力が必要で、厳しい検査もあるため、除草や乾燥に細心の注意を払い、生産者の苦勞が多い作物でもあります。同日は生産者11人が手際よく作業を進め、1時間40分ほど蒸して、香



▲釜に入れたシソの束を鎮圧する生産者のみなさん

料を抽出しました。今年春の発芽成長時期の降雪によって表土が固まり、一部の生産者は播種をやり直したことから草丈が短めでした。しかし、生産者の皆さんは「油のりが進む8月下旬からの天候にも恵まれたので、高品質の油を抽出したい」と期待を寄せていました。

作業は午前7時から午後8時まで続けられ、11月上旬に無事終了なにか、同組合の田中勇組合長は「昨年より若干下回った約800kgの抽出量となったが、品質が良かった」と話し、安堵感を表していました。



▶蒸留後に釜からクレーンで取り出されたシソの束

## 酪農女性が集い 加工事例で意見交換

### きたみらい酪農振興協議会



▲乳製品加工の取り組みについて報告する大塚代表

きたみらい酪農振興協議会は11月2日、市内のレストランで「酪農女性の意見交換・交流会」を開き、各地区で酪農に従事する女性組織の代表16人が参加しました。

同協議会は平成22年に担い手育成分科会を設け、「担い手育成実践計画」を樹立し、各種課題の解決や計画達成に向けた実践を進めています。

当日の集いも実践項目の一つに掲げられ、酪農を営む女性の情報交換と交流を目的に開かれたものです。

参加者は自己紹介と8地区の活動内容を報告。温根湯地区の「みるくVACCA(バッカ)」、置戸地区の「はるまの会」、訓子府地区の「モーモークラブ農酪娘(のらっこ)」の3グループがチーズやアイスクリー

△牛乳豆腐などの製品作りを報告しました。

この中で「モーモークラブ農酪娘」の大塚良子代表は「町の補助を受け、年次計画で乳製品加工機の導入を進めています」と説明がありました。

参加者からは、運営方法や取り組みについて具体的な質問や意見が出されました。最後に「年に一度は集まり、酪農女性の結束と交流を高めよう」と確認し合いました。

## 白花豆の選別最盛期

### 品質・収量ともに高感触

当JAの温根湯豆類調製工場で、全国一の生産量を誇る白花豆の選別作業が最盛期を迎えています。当JA管内では今季、52戸の生産者が133畝を作付けしました。

昨年のような開花後の猛暑による落花も少なく、さや付きは良好で粒も例年より大きな豆となっています。

同工場は、10月下旬に選別作業を始めました。大きさや重さで粗選別した後、コンベアに乗って流れる豆を、



▲コンベヤーで流れてくる白花豆をチェックするパート従業員のみなさん

パート従業員19人が汚れや変形がないか厳しくチェックします。選別した豆は煮豆やあん、甘納豆などの素材として、関東や関西、九州などに出荷しています。作業は来年1月まで続きますが、

総収量は昨年を上回る約360トを見込んでいます。

# INFORMATION

## 長雨に「無人ヘリ」が助っ人

### 作業受託3千餘、前年の2倍に

11月に入ってから毎日の降雨、秋まき小麦の雪腐病防除にスプレヤーを使用できない状況が続きました。当JAの購買部生産資材グループでは、農業用無人ヘリコプターが11日から散布作業を開始しましたが、その後も天候が回復しないなかで、申し込みが昨年の倍の3,000餘に急増する事態となりました。作業の委託を受けた2つの業者は、ヘリを14機に増やし、1機に4人の班編成で、空模様と畑の状況を確認しながら、薬剤の散布とヘリの安全運行に気を配って、懸命の作業が続けられました。



▲秋まき小麦の無人ヘリ防除に取り組むオペレータ

営農振興部技術開発グループでは、「降雨が停滞する畑は、溝切りなどの排水対策も重要」と話し、「平年の根雪前の12月5日前に防除を済ませよう」と生産者に呼びかけました。麦作振興会の河合会長は、「雪腐病は茎数不足や越冬後の生育不良を招く。こうした天候状態の時こそ、無人ヘリの効果が期待できる」と防除の必要性を強調していました。きたみらいでの秋まき小麦の作付面積は約4,800餘で、うち無人ヘリでの防除が62%を占めることとなります。

## チコリ根掘り作業

### 端野町地子里研究会

端野町二区の端野町地子里(ちこり)研究会は、11月上旬から、チコリ圃場で根の掘り取り作業を始めました。

今年は、降雨の影響で機械を使えず、足元が不安定のため、小川さん家族や近所の農家の応援を得て、13人が1本ずつついでにねいに抜き取り作業を行っています。

同研究会の小川吉猶会長は、「良質な根を掘り取れたので、高品質なチコリが生産できる」と期待を寄せていました。出荷は、今月中旬から3月末まで続き、生産量は約5トを見込んでいます。



▲チコリの根を抜き取る小川貴子さん

**チコリ** **ひんむち**  
根掘り後、収穫までの作業工程チコリの根は、直径約2〜6センチのものを選別。葉の基部を3センチほど残し、長さ15センチに切った根を3〜4日冷蔵庫で寝かせた後、もみ殻を敷き詰めた倉庫内に植え替える。倉庫内は光が入らないようにし、14度前後に保って、30〜40日の生育後、収穫を迎えます。

## 広報技術のレベルアップ目指し

### 全道JA広報担当者研修会



▲自然光を利用した写真を紹介する堀職員

JA北海道中央会は11月15、16日の両日、全道JA広報担当者研修会を札幌市の北農ビルで開きました。当JAの組合員向け広報誌「おひまサラダ」などの取材・編集に幅広く携わっている経験を踏まえ、企画振興グループの堀仁志職員が講師に立ち、事例発表や記事の書き方、写真の撮り方の講習を行いました。堀職員は、「可能な限り組合員と家族を登場させる。組合員間の交流を深める誌面とすること」などを紹介。取材や写真撮影のポイントをアドバイスしました。



▲撮影技術向上に取り組む扇谷職員と虻川職員(円写真)

当JAから2名の広報編集員も出席し、撮影技術の向上や取材の準備、イメージづくりの大切さを再認識、今後の広報誌の作成に意欲を示していました。

## 復興特別税の取り扱いについて「貯金利息の0.315%を課税」

平成23年12月2日に交付された「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」に基づき、平成25年1月1日より「復興特別所得税」が課税されます。

貯金利息(利子所得)に適用され、所得税の国税15%に対して2.1%が課税されますのでお知らせ致します。

貯金利息に係る源泉徴収税率  
現行20%《国税15%+地方税5%》

**新 20.315%《国税15.315%(うち復興税0.315%) + 地方税5%》**  
適用期間 平成25年1月1日~25年間継続

## 第10回 理事会報告

11月28日、午前9時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項8件、議決事項9件が協議され、原案通り承認されました。

### 【報告事項】

- ①内部監査<金融(貯金・共済)部門>報告について
- ②組合員状況報告について
- ③財務状況報告及び決算見込みについて
- ④第3回長いもまつり&収穫感謝祭実績について
- ⑤平成24年産玉ねぎ・馬鈴しょ選果状況について
- ⑥平成24年産小麦の概算精算について
- ⑦生乳生産状況及び個体取引価格状況について
- ⑧第1回ふれあい農業祭実行委員会開催報告について

### 【議決事項】

- ①出資増減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の取得及び処分について
- ③諸規程の改正について
- ④役員報酬審議会委員の選任について
- ⑤年末手当の支給について
- ⑥貸付金利息の期中還元について
- ⑦資産査定要領の改正について
- ⑧平成25農業年度事業推進方針について
- ⑨平成25年度地域再編に向けた取組み(案)について

あなたのライフプラン応援します

**冬貯金** キャンペーン

募集期間 11月1日(木)~12月28日(金) 平成24年

期間中の定期貯金の適用利率  
スーパー定期・大口定期

**5年 0.3% 固定**

お取扱条件 新規で10万円以上お預入または、満期継続時は10万円以上の増額お預入を条件とします。

- お取扱対象/個人の方に限りです。
- 積金の種類/スーパー定期・大口定期 1年と5年の自動継続
- その他/総合口座への組み入れは対象となります。満期日前に解約する場合は、当組合が定めた中途解約利率となります。お利息には20.315%の税金がかかります。貯金保険制度の対象商品です。
- ※上乗せ金利は最初の満期日までといたします。

詳しくは、お気軽にJA/バンク窓口までお問い合わせ下さい。

**JAきたみらい**

本店	札幌市中央区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111	訓子府支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111
温根湯支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111	相内支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111
留辺蘆支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111	上常呂支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111
置戸支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111	端野支店	札幌市東区南一条西1丁目1番8号 電話(011)742-2111



**【材料：4人前】**  
 餅米 ……3カップ(540ml)  
 水 ……300ml  
 ゴボウ ……1本(150g)  
 牛薄切り肉 ……100g  
 水 ……1カップ  
 ユズ、スタチなど…少々  
 クコ ……少々

A 水 ……1カップ  
 酒 ……大さじ1  
 しょうが汁…大さじ1  
 B みりん ……大さじ1  
 しょうゆ…大さじ1  
 塩 ……小さじ1/2

## ゴボウと牛肉のおこわ

【エネルギー449kcal (1人分)】

### 【作り方】

- ①餅米は洗い、たっぷりの水に約1時間浸す。ざるにあげ水気を切る。
- ②炊飯器に餅米と分量の水を入れ、普通に炊く。
- ③ゴボウは皮をこそげて、ささがきにし、水にさらして、あくを抜き、ざるにあげる。肉は細切りにする。
- ④鍋にAと肉を入れて煮る、沸騰したら、ゴボウとBを入れて煮汁が100mlくらい残るまで煮る。
- ⑤おこわが炊きあがったら、④を煮汁ごと加えて、よく混ぜる。好みでユズなどの汁を掛ける。クコを載せて飾る。

### メモ

おこわを炊飯器で炊けることを知らない人が案外多いようです。炊飯器におこわの目盛りがあるときは、餅米を洗って、その水位に。またはたっぷりの水に浸して、ざるにあげ1カップに対して100mlの水を加減で普通に炊きます。豆はもちろん、栗、芋、山菜など炊き込んで変化を楽しみましょう。

# おひさまサラダ COOKING

♥おいしいもの大好き!♥



**【材料：4人前】**  
 おでん用揚げボール ……8個  
 ウズラの卵の水煮 ……8個  
 ミニトマト(湯むきする) ……8個  
 ブロッコリー(硬めにゆでる) ……1/2株  
 サツマイモ ……1本(200g)  
 キャベツ ……1/2個(500g)  
 結びしらたき ……8個  
 油揚げ ……2枚  
 切り餅 ……2個(100g)

煮汁  
 水 ……1.5L  
 昆布 ……10cm以上  
 削りかつお ……10g

## 変わりおでん

【エネルギー283kcal (1人分)】

### 【作り方】

- ①分量の水に昆布を、約30分漬け、火にかけ、沸騰の直前で昆布を取り出し、削りかつおを入れ、沸騰したら火を止め、こして、だしを取る。昆布は結ぶ。
- ②竹串に揚げボールとウズラを刺す。
- ③サツマイモは1.5cm厚さの輪切りにする。キャベツは芯を付けたまま、4つに切る。
- ④餅は半分に切る。油揚げは半分に切って、開き、餅を入れて、口をようじで留める。
- ⑤大きな鍋に①と昆布(砂糖、塩、みりん、しょうゆ、各小さじ1・材料外)、③④、しらたきを入れて、ふたをして約15分煮る。
- ⑥②、トマト、ブロッコリーを入れて軽く煮る。

### メモ

手近にある野菜をいろいろ入れて、フレッシュ感を楽しみましょう。味をしっかりと染み込ませるおでんとは違うので、芋などに火が通れば食べられます。

### 編集後記

- ・おでんとうさまに右往左往させられた平成24年、残すところ1ヶ月を切りました。街中ではイルミネーションも飾り付けられ、もうすぐ“X'mas”の雰囲気が出ています。
- ・「おひさまサラダ」も12月号の発行となり、あらためて今年を振り返ってみると、作付けや収穫期では長雨に泣かされましたが、農産物の収量は平年に比べ多かったようで、生産者の苦労が少しは報われた年ではなかったかと感じています。
- ・来年は好天に恵まれ、農作業が苦労しないよう“おでんとうさま”、恥ずかしがらずにたくさん顔を見せてください！お願いします。(荒畑 正紀)

### JAきたみらい概要

(平成24年11月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,817人
- ・組合員数(准) 5,648人
- ・組合員戸数(正) 1,213戸
- ・貯金 103,219百万円
- ・貸出金 19,604百万円
- ・出資金 5,090百万円